

言語活動の充実に関する実践事例

学校名 (呉市立 蒲刈小学校)

- 1 教科等 特別活動
- 2 議題名 「蒲小太鼓かがやきプロジェクト」〈学級活動 (1)〉
- 3 学年 第6学年

活動のねらいと評価規準

活動のねらい	建設的な意見を述べ合えるようにし、多様な意見の良さを生かして楽しい学校生活をつくるためのよりよい集団決定ができるようにする。		
観点	①集団活動や生活への 関心・意欲・態度	②集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	③集団活動や生活につい ての知識・理解
評価規準	ア 議題に対して、自分 の考えをもととする。 イ 友だちと協力して決 めた活動をスムーズに 進めようとする。	ア 理由や具体例を述べなが ら、解決に向けて効果的に 表現することができる。 イ 話し合いの結果を見通して 準備をすることができる。	ア 議題提案から話し合 いの結果のまとめで、活動 の流れや効果的な進め 方が分かる。

議題設定の理由

○題材観

本題材は、小学校学習指導要領の学級活動の高学年の指導内容「学級を単位にして、信頼し合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくとともに、日常生活や学習に自主的に取り組もうとする態度の向上に資する活動を行うこと」をもとに設定したものであり、活動内容の(1)学級や学校の生活づくりの「学級や学校における生活上の諸問題の解決」にあたる。

本校では、統合以来5・6年生が「トランペット鼓隊」「蒲小太鼓」を学校行事で演奏して7年目になる。毎年、保護者や地域の方、小中の児童生徒に演奏を聴いてもらうことが高学年としての目標となっている。5月の合同運動会に向けて、6年生が5年生に指導しながら練習し、みんなで音色や隊形移動を合わせることの困難さを克服しながら堂々と演奏することを目指してきた。また、地域の方を指導者に招いたり、先輩である中学1年生に演奏を聴いてもらったりしてアドバイスを受けながらよりよい演奏になるように意識を高めていった。アンケートや振り返りでは、8割以上の児童が達成感を感じ、大きな自信となっている。

しかしながら、児童数の減少により、十分な編成や練習内容を組むことが難しくなっているという課題がある。また、しっかりと伝統を受け継ごうという意識はどの児童ももっているが、具体的なめあてや見通しをもち、主体的に実践していこうとする意識は高まっていない。

伝統の蒲小太鼓をよりよいものに高めるために、6年生としての責任と役割を自覚させるとともに、自主性や計画性を育てるようにしていきたい。

○児童観

本学級の児童は、5年生のときから、学級集会活動や全校集会の計画などにおいて、計画委員会を中心に計画を立て、提案内容をもとに全体で話し合う活動をしてきた。大まかな話し合いの流れをつかみ、司会者を中心に意見交流したり、意見をまとめたりすることができるようになってきた。しかし、一人一人が自分の意見をしっかりと表現できないまま、多勢の意見に流れていくような場面や、話し合いで決まった内容についての受け止め方が人と違っていただけに実践の段階で初めて気付くような場面も見られる。

また、合同遠足や合同運動会等の行事において、学級全体で内容を見直し共有することで、一人一人が役割をもち、6年生全体で協力して活動するようにしてきた。しかし、実践になると、決められた仕事はきちんとこなすものの、状況が変わったときにうまく対応できない児童や、他学年にすすんで関わるのが難しい児童もいる。

これらの要因として、一人一人が具体的な意見や見通しをもたないままに準備・計画の話し合いに入った

り、多様な場面を設定した具体的な話し合いになっていなかったりしたことがあげられる。

いろいろな機会や場面を仕組み、活動のめあてを理解しながら、自分で見通しをもって自主的に活動する経験を増やしていく必要がある。

○指導観

指導にあたっては、まず、トランペット鼓隊の取組を振り返ることからスタートし、一人一人が主体であるという意識をもたせ、自分のめあてや意見をしっかりと表現できるようにさせる。そのために、議題に対する個々の計画表を作り、話し合いに生かせるようにしたい。

話し合いの場面では、昨年の反省から練習をどのように工夫したり改善したりするとよいか話し合いの焦点を明確にし、意見交流が深まるようにしたい。そのために他の人の意見を「疑問」「共感」「別の意見」などの視点をもとにしたワークシートに整理しながら聞かせ、その良さをとらえた上で、新たな考えや建設的な考えを導き出すことができるようにさせたい。

見通しを持って話し合い活動を行えるようにするために、「準備・計画」「話し合い」「実践」「振り返り」のサイクルを掲示するなどして、児童に意識させ、自分たちの力で達成できたという満足感をもたせ、次への意欲へとつながるようにしたい。

指導改善のポイント

- ・ 一人一人が主体であるという意識をもたせ、自分のめあてや意見をしっかりと表現させる。
- ・ 他の人の意見の良さを生かしながら、建設的な考えを導き出すために多様な視点をもたせる。
- ・ 「準備・計画」「話し合い」「実践」「振り返り」のサイクルを意識させる。

研究主題とのかかわり

本学区の研究主題「主体的に学び、表現できる児童生徒の育成 ―言語活動の充実を通して―」を受け、9年間を見通して各教科、総合的な学習、特別活動と関連させながら、夢や目標に向かって主体的に取り組む児童生徒の育成を目指している。

学級活動の時間においても、児童が主体的に課題に対して向き合い、自発的に計画を立てる力や課題や改善点を見つける力をつける取り組みをすることで、個々の表現力を高め、豊かな心を育みたいと考える。

各教科等との関連

時期	体験活動		総合的な学習の時間	道徳の時間	各教科
	特別活動				
	行事	学級活動			
5月	合同運動会 「トランペット鼓隊」	中1との交流	○伝統を受け継ごう 「トランペット鼓隊」 ★ゲストティーチャーを招いて	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> よりよい校風 愛校心 4－(6) 「こん棒体操」 </div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 続けること 役割・責任 4－(3) 「わたしたちの小さな駅」 </div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 困難を乗り越えて 希望・勇気・努力 1－(2) 「伊能忠敬」 </div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 責任ある行動 自由・自律 1－(3) 「頂上はすぐそこに」 </div>	・国語科「学校の良さを宣伝しよう」 ・社会科「大陸に学んだ国づくり」
6月					
7月					
8月					
9月	合同発表会 「蒲小太鼓」	中1との交流	★ゲストティーチャーを招いて		・国語科「意見を聞き分けよう」 ・社会科「室町文化と力をつける人々」 ・国語科「わたしの意見を書こう」
10月					

活動の見通し

	児童の活動内容	指導上の留意点	評価〔観点〕(方法)
話し合いの活動の準備	1 議題を決定し、めあてを確かめる。 2 自分の考えをもつ。 3 計画委員会で内容と進行を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の反省点から改善する点を考えさせる。 ・個人の意見を評価し、自信をもたせる。 ・個々の計画表を作らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議題提案から話し合いの結果のまとめで、活動の流れや効果的な進め方が分かる。〔集団活動や生活についての知識・理解〕(学級ノート・発言)
話し合い活動	4 話し合い活動【本時】	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいや提案理由を意識させ、発言を整理したりつなげたりできるように助言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理由や具体例を述べながら話し合い、お互いの意見の良さを生かした集団決定をすることができる。〔集団や社会の一員としての思考・判断・実践〕(発言・学級ノート)
実践活動の準備	5 計画書を作成し、必要な物を準備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の進捗状況を朝の会や帰りの会などで確認し合うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いで集団決定したことをもとに見通しを持って準備をすることができる。〔集団や社会の一員としての思考・判断・実践〕(行動観察・計画書)
実践活動と振り返り	6 実践 7 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・連携をとりながら協力して取り組むようにさせる。 ・成果や改善点、友だちのがんばりを振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと協力して決めた活動をスムーズに進めようとする。〔集団活動や生活への関心・意欲・態度〕(行動観察・振り返り)

本時の展開

- ① 本時の目標 「蒲小太鼓かがやきプロジェクト」を成功させるために、前回の反省点をもとに、よりよい改善策を話し合うことができる。
- ② 準備物 資料、記録ノート
- ③ 学習の流れ

	学習活動	指導上の留意点	評価基準 〔観点〕(評価方法)
つ か む	1 本時の議題と提案理由、めあてを確認する。	◇前回行ったトランペット鼓隊の時の反省点を提示する。	
	議題：「蒲小太鼓かがやきプロジェクト」を成功させよう。 提案理由：前回のトランペット鼓隊の反省を生かして、蒲小太鼓をよりよい発表にしたいから。 めあて：他の人が納得できるように理由や具体例根拠をはっきりさせて話し合おう。		
深 め る	① 始めのことば ② 担当者の紹介	◇めあてや提案理由を意識させる。 ◇計画委員に、各自の役割を自覚させる。	
ま と め る	2 話し合う。 ① いろいろな意見を出し合う。 ② 意見を整理する。 【じっくり考える】 話し合いのめあてに沿った意見かを考える。 ③ 賛成の理由や問題に対する解決方法を考える。 【はっきり表現する】 理由を述べながら、具体的な方法を示したり条件を付けて賛成したりしながら発言する。 ④ 意見をまとめる。	◇意見を聞くときは、疑問・共感・別の意見などの視点でワークシートに整理させる。 ◇進行が止まったときや話し合いのねらいから離れたときは、必要に応じて適切な支援をする。 ◇折り合いの付け方を意識しながら発言を工夫させる。 ◇ねらいや提案理由に沿った集団決定になっているかを確認させる。 ◇決まったことと理由を簡潔に伝えさせる。	・理由や具体例を述べながら話し合い、お互いの意見の良さを生かした集団決定をすることができる。 [集団や社会の一員としての思考・判断・実践] (発言・学級ノート)
	3 決まったことを確かめる。 ○ ノート書記が決まったことを発表する。 4 活動を振り返る。 ○ 振り返りをノートに書く。	◇今後の活動の流れを示し、見通しを持たせる。 ◇話し合いの良かった点と改善点を整理するとともに、実践に向けての目標を持たせ、交流させる。	

言語活動の充実